

令和7年度〔自己評価報告書〕

| | | |
|------|-----------|-------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 056 | 川崎市立末長小学校 | 吉野 晶子 |

| | |
|--|---|
| 学校教育目標 | 今年度の重点目標 |
| 誰もが明日も登校したくなる学校の創造 ～地域を愛し、地域の強みを生かして～ | <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度を育成する授業づくりと評価 友達や地域の良さを認め合い、意欲的に協働して課題や活動に取り組む場面の保証 |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 |
|------|---|---|--|
| 1 | 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った不断の授業改善および「一人一人が楽しく学ぶ国語学習」にむけた実践研究 | 児童が主体的に考えられるような「問い」を検証したり、交流を深める教師の出番を考えたりするなど、授業改善に向けて努力できた。また、「聴いて考えて つなぐ」学習の素地となる「聴き方・話し方」の日常的な指導も昨年以上に行うことができた。ただ、教科によってはまだ説明的な指導が多い現状にあることが今後の課題になる。学習のゴールや見通しをもつための「学びのプラン」を作成して授業に臨むなど、年間を通して「読み」の学習を充実させられた。ノートの記述から個々の学習状況を把握していくの重要性も共通理解できてきている。個に応じた「楽しく読む」ための手立てを充実させていくことには課題が残った | 年度はじめに「授業の在り方」、学習を通じてどのような資質・能力を育てていくのかを共有していきたい。定期的に部会会議を開き、実践事例を紹介し合えるようにするとともに研修の機会を計画的に設ける。また、専門性のある外部講師も招聘していきたい。「読み」の研究をするものの、日常的な言語指導は欠かせないことを、異動者や初任者にも共通理解を図る。特に「教科指導を通して学校教育目標の実現をめざす」というカリキュラム・マネジメントの考え方をしっかりと年度当初に伝えてスタートしたい。 |
| 2 | 地域と連携した教育活動の充実 | 総合的な学習の時間を中心に、地域の方々の協力を得て探究活動を充実させることができた。3年生は町会の方々とつながりを感じられる活動を、4年生はパラアスリートや福祉にかかわる方々の出前授業を実施した。6年生は株式会社ゼネラルに協力を仰ぎ、出前授業で体験的な学習をすることができた。また、5年生は、エネルギーワークショップに参加し、総合の学習で探究したこと発表することができた | 引き続き、町内会や企業との関わりを大切にし、協力をお願いしていくとともに、学校運営教育会議を通じて、地域人材を広げたり、地域との連携を強めたりして、教科や総合的な学習の学習活動をより充実させていく。探求的な学習にとどまらず、キャリア在り方生き方教育とも関連付けて教育活動が計画できるよう努める。 |
| 3 | 児童指導 | Coが中心となり担任や相談機関と連携しながら、困り感のある児童や保護者に寄り添うことができた。いじめや児童間のトラブルはゼロとはならないが、児童が自分事として受け止められるような手立ては講じてきた。全校の人数が多く、校舎が学年によって離れているので一斉に指導することの難しさも感じた。SNSについてトラブルや万引きなど放課後の出来事も上がってくることもあり、対応の線引が課題である。 | 様々な事情を抱え、不登校傾向を示す児童が増加している。児童指導と学習支援の両面から支援が進められるように校内体制をさらに整備していきたい。そのためにも、教育活動に携わる人員を確保し、体制を整え、少しでも児童一人ひとりに寄り添っていけるようにしたい。 |

| | | | | |
|---|-----------------|---|---|---|
| 4 | 危機管理 | 非常時に慌てず行動できるよう、誰にでも理解しやすいマニュアルを作成し、実践的な訓練を実施する。また、自分の身を自分で守る意識を高める防災教育に取り組んだ。 | 休み時間を活用した無告知訓練など、複数の状況を想定した訓練を実施することができた。夏季休業中に、スクールガードリーダーを講師に招き、不審者対応についての職員研修を行った。児童だけでなく、職員の危機管理の意識が高まるように努めた。 | いつ自然災害が起きても児童の安全を確保できるよう、防災引き渡し訓練を年度始めに実施する。令和8年度も職員研修を継続し、職員が連携して災害や事件に対応できるようスキルアップに努める。 |
| 5 | 情報教育(情報活用能力の育成) | 各学年で、発達段階やGIGAスクール構想を考慮し、学習の中で情報活用能力が育成できるような活動を意図的・計画的に実施した。低学年では、GIGA端末の基本的な使い方の習得、中学年ではタイピング能力の習得、高学年では、プレゼンソフト等を活用したまとめ・発表の能力の育成に取り組んだ。また、写真や動画を使って交流する活動を通して、対話的な学習がより深まるように取り組んだ。 | 低学年では、写真撮影やローマ字入力ができるようになった。中学年では、写真に短い文章を加えて発表資料を作成する能力が身についた。高学年では、調べたことや自分の考えを、分かりやすくまとめ、効果的に伝える力が伸びた。一方で、高学年では、家庭でのSNSの利用や学校でのGIGA端末の使い方でのトラブルもあり、情報モラル教育を重質させていくことへの重要性も感じられた。 | 担任の力量によって取り組みにばらつきがないよう、また、6年間のつながりを考慮して情報活用能力の育成ができるよう、職員間で協力体制を整えていく。情報モラル教育の重要性については、児童だけでなく教職員も意識を高めていかなくてはならないと考える。外部講師を招き、出前授業や職員研修などを計画的に実施していく。 |
| 6 | 開かれた学校情報発信 | 学校ホームページに各学年のページを追加し、学校生活の様子が保護者に伝わるよう、改善を行った。学校説明会・報告会を動画配信で実施することで、より多くの方に、学校の運営方針や取り組みが伝わるようにした。学校運営協議会では、運営協議会の場で代表の児童がスピーチを行い、自分たちの思いを伝えた。 | 授業参観や懇談会だけでなく、学校ホームページを通して、児童の様子や学校の取り組みをより広く伝えることができた。学校報告会は、再生回数が400回を超えたことから、集合形式での実施に比べ大幅に多くの方に、学校の取り組みを伝えられたと考えられる。 | 来年度も情報開示のDX化に努め、より多くの保護者と地域の方々に学校運営方針やその実現に向けた取り組み、子どもの活動の様子などを伝えていく。また、地域の方々に向けては、学校運営協議会を通して情報発信する方策について模索していく。 |

| 学校関係者の評価 | | 学校運営のまとめ |
|---|--|---|
| <p>令和8年1月の学校評価報告によると、全体として保護者の約8割から肯定的評価を得られたが、一部の項目で課題も見えてきた。成果としては、学校教育目標にも掲げている「安心できる学校生活」についての取り組みが9割の保護者に高く評価されていることが挙げられる。一方、以下の3項目については改善が必要だと考える。①「主体的に学習に取り組む態度」が肯定的な回答が6割にとどまった。②「地域との連携」は、児童アンケートと保護者アンケートの結果を比べると、肯定的な評価の割合に差があった。③「あいさつの育成」は、年間を通してあいさつ運動に取り組んだものの、あまり効果が実感できないという回答が目立った。保護者の自由記述からは、教員の負担軽減に向けた外部委託の活用、子供同士で教え合う「寺子屋」のような学習機会、朝の時間への運動導入などの提案が寄せられた。これらの課題に対し、コミュニティスクールの協力を仰ぎながら改善を図っていく。</p> | | <p>今年度の重点目標を踏まえながら「チーム末長」として教育活動の様々な場面で子供たちの豊かな人間性と健康体力の増進を基本とした資質能力の育成に取り組んだ。あたたかな聴き方とやさしい話し方を軸とした学年学級経営に取り組み、子供たちが主体的に自分の思いを話すことのできる環境づくりに努めてきた。成果として子供たちの自己肯定感の高まりや友達の良さに気付き認め合える関係性の構築につながり、学校評価アンケートの高評価にも表れている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる学習活動を意識し、PDCAサイクルによる「主体的・対話的で深い学び」に基づいた授業づくりを推進してきたが、そのことが要因となって学校に登校しづらくなっている子供がいるのも現状である。多様化する子供たちの実態をしっかりと把握し、対話の場面において話すことの苦手な子供や人との関わりを好まない子供たちへの個別の支援や学習方法の工夫等、インクルーシブ教育の理念も視点にいれながら学校運営を進めていきたいと考えている。</p> |